

2007.08.27：防災・危機対策調査特別委員会

「食料等の緊急物資の備蓄等の現状と課題について」

池田友信委員

まず聞きたいのが、先ほど言った地下貯水という部分で1日3リットルでの対応できるようなものが市内に18カ所あるという、これは公園の下とかも含めての部分だと思うんですが、宮城県沖地震のときに、宮城野区ですが地下貯水にクレバスができちゃって、入っていたと思った地下水がまったく空になっていたという事態があったんです。そういう状況を考えると、現在18カ所ある地下貯水の部分については点検をしているのかどうかということと、今論議になっております青葉山隧道、私が議員になって間もなく完成したと思うんです。あのころ見学に行きました。相当期間がたっているし、ある程度の地震も何回か来ていますから、そういうメンテナンスというのは行っているのかどうか、お伺いします。

田元水道局次長

指定避難場所とか、あるいは広域、そういったところにあります地下貯水槽、緊急貯水槽と申しますが100立方メートルのものでございますけれども、これについては非常に耐震性の高い、丈夫な高性能タンクできちっとつくってございまして、水が漏れるとかということはまずないと考えております。点検につきましては半年に1回なり、3カ月に1回なりきちっと点検をしております。

青葉山配水場につきましては、委員がおっしゃるとおり築15年以上たつてございますけれども、なかなか中には入れないんですけれども、外部からのいろんな点検ですとか出口、入口の点検につきましては不断に行っております。

池田友信委員

そうしますと宮城県沖地震以降の設置で18カ所という感じで受けとめていいですか。先ほどの公園、避難場所等に設置されている部分。それ以降でいいですね、改築したということですね。

田元水道局次長

100立方メートルの緊急用貯水場につきましては、おおむね平成元年くらいから、年1基ずつつくってまいりまして、現在18基というふうになっております。宮城県沖地震が昭和53年でございますので、それ以降ということになります。

池田友信委員

その前に建てた、そういうクレバスが出て使用不能だったという部分も改修したということで確認していいでしょうか。また、この水槽のふたにかぎがかかっているかと思うんです。そのかぎをどこで持っているかということが一つ。

もう一つは家の近所にもあるんですけども、そこから水をくみ上げるということは大変なことです。ストックしていますから。その辺のくみ上げをする方法をいざというとき、どんな形でだれがするのかということ。その辺のことがわかればお願いします。

田元水道局次長

まず、非常用、緊急貯水場の立ち上げでございますけれども、基本的には職員でございます。さらに半年に1回とか、設置してある場所の近隣の住民の方に参集していただきまして訓練するとき、場合によっては近隣の方にかぎなどを預かっていただいております。それから、局職員の退職者による災害ボランティアがございますので、極力そういった方にも立ち上げていただくような工夫をしております。

それから、使用不能になった貯水槽がなかったかというお話でございますが、私が記憶する限りではそういった飲料水のためものはなかったかと思っております。

池田友信委員

宮城県沖地震のときに、福住町の公園の下にある地下槽はクレバスでもう水がなかったんです。そういう状況を全部ほかのところを含めて点検して改修して、修理して18カ所というのは、平成元年に新しくつくった場所だけを言っているのか。それ以前につくったものも改修して、それを含めて18カ所なのか。そこを聞きたい。

水道局長

もしかして、水道局の防火水槽かもしれませんので、ちょっと調べさせていただきたいと思います。

池田友信委員

そういうことも含めますと、先ほど言われているように、我々特別委員会で備蓄の問題をやる中で、市民に安心を与えなくてはならないですね。

水に対してはこうですということを、やはりこの18カ所であるとか、青葉

山隧道も含めてこういうところにこういうふうな水をちゃんと確保していますと。だから市民の皆さん1日から2日は頑張ってくださいということを、やはりPRしないと。今現在はPRされていませんよ。ですから、今の18カ所も青葉山隧道も含めて、きちっと安全なのか、地震のときあっちに行ったら使えないという状況にはならないようにしていただきたいし、特にこの18カ所の部分については、現地から見ればいろいろクレームがつくんですよ。だれがこれをやるのと。職員といったってどの職員がどこにいるのという部分。かぎをだれが開けて、くみ上げといったって地下ですからね。どういうふうにくみ上げるのか。人力で上げるんだったら町内会で対応しなくてはいけないけど、今まで町内会の中で一緒になって訓練したという経験はないですね。近隣の状況から見ますと。防災訓練ということも含めてですね、こういうことであれば日常、すぐにできるような形に地域と一緒にやっていないと、絶対にいざというとき使えません。ですからその辺について、もう一度かぎの場所とどういふふうにしてくみ上げをするのか、この辺を後で整理して説明をしていただきたいと思います。

それから、先ほどのプールの浄化水の機能は聞きましたけれども、何個あるんですか。各学校に1個ずつということですか。

防災安全課長

各区及び総合支所で7台でございます。各区役所に1台で5区役所ですので5台、総合支所は2カ所で2台、あわせて7台となります。

池田友信委員

値段は幾らくらいですか。

防災安全課長

きょうは細かい数値を持っていませんが、200万円から300万円の間というふうにとらえております。

池田友信委員

考えようによったら全校にプールはあるんですから。プールのない学校はほとんどないでしょう。これを浄化して飲料水にできるというふうな形のものに増設する計画はないんですか。年間にふやしていくという形にしていた方が緊急性への対応からいったら、用意としては効果的な部分でないかなと思うのですが、計画はないんですか。

## 防災安全部長

浄水機の増設についてのお尋ねでございますが、先ほど課長の方から御説明させていただいたとおり、基本的には今ある各区役所に、避難所、コミセンにあるペットボトル等の水、そして水道局さんの行う応急処置による水。というのは水ですので考えなくてはいけないのが衛生上の問題、確実に衛生の部分が担保されるということが最優先だと思います。

その次に、浄水機による水の浄水でございますが、これは7カ所に7基置いてあるのですが、その取り扱い上の問題であるとか、安全性の問題とか、ほかの場所とかこういったものを考えますと現状のままで浄水機については維持していきたいと考えております。

## 池田友信委員

これは我々ももっと論議しなければいけないと思いますが、神戸の震災時に一番水の問題で困ったと言われている。飲み水もさることながら、いろんな医療の水とか、洗う水とか、水の中にはいろんな段階をつけなければならないですけども、そういうことも考えると、今の防災倉庫である備蓄されている飲み水だけを水という感覚ではなくて、いろんな形で災害に使う水もそういう用途についての対応ができるのかどうかということを考えていかないと、私は水の問題は準備ができているという形には、なかなか難しい状況があると思います。

これはいずれそういうことを想定して、どういう用途に対する水はどれくらい確保できるというふうな、そういう割り出しをしていかないとこれから準備ができた、安心だという形には私はならないと思います。きょうのところはその辺のデータがないと思いますが、今後の課題という形でやらなければならないと思うんですけども、我々としても、特別委員会としては市民の対応に対する政策論議をしないといけないなと思っています。